



哲 學 研 究

第 三 十 卷 第 五 册

第 三 百 五 十 號

昭 和 二 十 一 年 九 月 一 日 發 行

大正五年四月六日第三種郵便物認可
昭和二十一年九月一日印刷納本（毎月一回一日發行）

獨逸神祕主義と獨逸
（承前）……文學博士 西谷啓治

アリストテレスに於ける實踐の構造
（承前）……文學士 安藤孝行

——意識諸部分の聯關——

精神病者に見られる時間體驗の障礙……

フライヘル・フオン・ゲープザツテル
醫學博士 村上仁譯

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其ノ普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

- 一 毎月一回研究會ヲ開ク
- 一 毎年公開講演會ヲ開ク
- 一 毎月一回哲學研究ヲ發行ス

第四條 本會ノ事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得、學校、圖書館、教育會、其ノ他團體ハ

其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年三十圓、前後二期ニ分チテ前納スルコトヲ得

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配布ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	白井二尙
文學士	上野照夫
文學士	澤瀉久敬
文學士	重澤俊郎
文學博士	島芳夫
文學士	園原太郎
文學博士	西谷啓治
文學博士	久松眞一
文學博士	本田義英
文學士	松村克己
文學博士	矢田部達郎
文學博士	山内得立
文學士	井島勉

ぬ水は汚れる」等の俗諺にも表現されてゐる。即ち活動を停止したものは破壊的な力によつて解體して行くのである。かく「不潔」は停滞せる生命を支配する退行的傾向の象徴化の特に印象的な場合と考へられる。排出物や残物が體內から排出される如く、未來に向ふ健全な生活は絶えず過去を排除し、過去から逃れようとする。しかるに強迫病者に於ては過去は完了形をとることなく、未が完結せざるものとして病者に迫り、病者を不潔、不純、死を象徴する表象によつて満す。病者を脅かすのは絶えず發展する形態なる生命に反對し敵對する病的障礙であり、それは人格の價値、美しさ、完全さ等を減少させる如き傾向の象徴なる不潔、病氣、腐敗等の觀念によつて病者を苦しめる。病者は向上の道を塞がれるのみならず、却つて破壊的傾向のために次第に墮落する。強迫病状はこの事實が象徴の形で表現されたものである。強迫的行動は無形の破壊的諸力に對する空しく且つ無益なる反抗に過ぎない。何となれば病者に於ける退化、變質への傾向は未知なる生物學的條件によつて規定された「未來からの斷絶」の現はれであり、それは病者のあらゆる防禦と反抗にも拘らず決して征服され得ないものであるからである。

譯者附記 本論文の筆者はE・ミンコフスキー(パリ)、L・ピンスワンゲル(瑞西)、E・シュトラウス(柏林)等と共に精神病者を人間學的に考察し、規定しようとして試みる精神病學者の一人である。本篇は講演筆記であり、専門的な論文ではないが、筆者の見解を簡単に理解するには却つて重要な點もあると思ふ。

前 號 目 次

思考の心理學的意義……文學博士 矢田部達郎	アリステレウスに於ける實踐の構造………
	— 醫 學 部 分 の 聯 関 —
文學士 安藤孝行	知の第二面(承前)………
	— 個 體 的 自 覺 としての美 —
文學士 山田次郎	

會 告

- 一 本會へ入會希望者ハ京都市田中西浦町弘文堂書房
内京都哲學會宛ニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)ニ
送料ヲ加算シ御納付ノ上御申込被下度候
- 一 會員ノ轉居入退會(等編輯事務以外ノ一切)ノ事務
ハ弘文堂書房内京都哲學會係へ御通知被下度候
- 一 會費ハ「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」
宛ニ御拂込被下度候
- 一 前金切レノ場合ハ帶封ニ「前金切」ノ印章捺致ス
ベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 一 本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌
等ハ凡テ本會宛ニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- 一 會員にあらざる購讀者の御注文及び廣告に關する
件は「弘文堂書房」へ御申込下され度候
- 一 本誌の御注文はすべて代金郵税共前金にて御送り
下され度候
- 一 特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券十錢
御送付下され度候

昭和二十一年九月一日印刷納本
昭和二十一年九月五日發行

編輯人 京都哲學會

右代表者

澤 瀉 久 敬

發行兼印刷人 八坂淺太郎

東京都神田區駿河臺四ノ四

印刷所(京都志) 弘文堂印刷部

京都市田中西浦町四〇

配給元 日本出版配給株式會社

東京都神田區淡路町二ノ九

發行所 弘文堂書房

東京都神田區駿河臺四ノ四

定 價		冊 數	定 價	郵 稅
冊	價			
一冊	金二圓半錢	一冊	金十五錢	
六冊(前金)	金十五圓	六冊(前金)	金三十圓	金一圓全錢
三冊(前金)	金三十圓			